

1 学校教育目標

・進んで考える子ども ・責任をもって働く子ども ・健康で明るい子ども ・礼儀正しい子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○人、物、価値との出会いを通して児童の夢や意欲を育む学校 ○安全安心に学べる環境のもと、児童が笑顔で登校できる学校 ○常に情報発信し、家庭・地域の信頼を得て、連携した教育活動に取り組める学校
○児童・生徒像	○学習規律が定着し、意欲的に学習する児童 ○よりよい集団を目指し、積極的に行動する児童 ○体力向上に努め、笑顔で生活する児童 ○道徳的判断力を身につけすすんで実践する児童
○教師像	○自らが模範であることを意識して、情熱と向上心をもって教育に取り組む教師 ○児童と向き合い、共感と励ましをもって成長を見守る教師 ○社会人、公務員として責任をもって職務遂行する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

◎学校の現状

児童数は339人で各学年2学級である。明朗活発で素直な児童が多い。平成23年度より取り組みを始めている3名人指導（挨拶名人、靴揃え名人、廊下歩き名人）を生活指導の柱としており、日常生活の中で上級生が下級生を指導したり、模範を示したりすることが全児童への徹底に繋がっている。教員は、若手が多く、校内での種々の研修はもとより、足立区教育研究会の研修や、小中連携教育を軸に指導力向上に努めている。

○前年度の成果

・感染症を意識した新しい生活スタイルの中で、臨機応変に対応しながらも、区や本校独自のスタンダードを意識して教育活動を展開することができた。

○今後の課題

・学習面や生活面においてクリアすべき優先順位を明確にして教育活動を展開していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	社会力の育成	○	○	○		
3	健康な児童の育成	○	○	○		

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標			達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●
学力の向上			区学力調査通過率 国語 78％算数 80％以上 ワークテスト正解率平均 全学級 80％以上		区学力調査 国語 84％ 算数 79.9％ ワークテスト		ほぼ目標を達成している。とくに国語では大きな成果が見られた。		◎
B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	放課後学習 A I ドリル	国語 算数	放課後 学習 年24回	【指導者】全教員 【目的】基礎基本の定着 【教材】AI ドリル	全校一斉の放 課後学習時間 の設定	ワークテスト 正解率 80％以上	学校全体平均正解率 国語 81.68 算数 81.91 全学級達成には至っ ていない	読解に絞った放課後学習 の成果が大きい。テストは 学級別、観点別にみると国 語「漢字」算数「思考判断 表現」において80に満た ない学級が複数見られる。	○
2 継続	朝学習	国語 算数	毎週 火水金 始業前 10分	【指導者】担任 【目的】基礎学力の定着 記述力の向上 【教材】αドリル	ドリルの確認	ドリル終了	予定どおり実施 ドリル終了	国語においては成果 が見られたが算数の 習熟が課題である。	○
3 継続	家庭学習の 充実	全児童	年3回 6月10月 1月	家庭学習強化月間とし、保 護者に呼びかけ、宿題の提 出率を確認する	宿題提出状況 調査	90％以上の 提出率	提出率 88％	概ね達成できている。	○
4 継続	校内研究 授業改善	全教科	通年	・全学年究授業 ・ICT活 用研修 教科担任制 ・道徳研修	授業観察 教科指導専門 員指導	全学年授業	校内研究等を予定通 り実施し、改善を図 ることができた。	ICT 活用をさらに充 実させていく。	○
5 継続	学校図書館 の利用	全児童	通年	・読み聞かせ ・読書週間の推進活動	学校図書館基 本計画	基本計画目標 達成	各学年の基本計画は 達成できた。	読書や調べ学習をさ らに充実させたい。	○

重点的な取組事項－２		社会力の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
社会力の育成		生活意識調査による「自己肯定感」「言葉遣い」「人間関係」の総合満足度を前年度より増加させる。	自己肯定感 60.9%→71% 言葉遣い 90.6%→91% 人間関係 93.7%→94%	児童の肯定的回答は微増となった。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
3 名人指導	全学年 90%以上の達成 挨拶名人 廊下歩き名人 靴そろえ名人	3 つの名人の実践を定期的に奨励し、年 2 回状況調査をする。	90%以上が達成している。 挨拶や靴そろえなど率先して行う児童が多い。	挨拶、靴そろえに対して廊下歩きには課題がある。	○
自己肯定感 社会貢献意欲の育成	意識調査 自己肯定感 70% 言葉遣い 90% 人間関係 90% 以上	学校行事 異学年交流 クラブ、委員会活動	意識調査 自己肯定感 67.5% 言葉遣い 91% 人間関係 94%	自己肯定感項目は前年度より微増であるが向上した。	△
外部との交流 出前授業の有効活用	各学年年間 3 回以上の実践	幼保小交流 高齢者施設交流 企業や教育関連団体の出前授業	LGBTQ や文化庁芸術授業等、各学年 3～6 回の出前授業等を実施した。	出前授業や、外部との交流授業を全学年において活発に実施することができた。	◎

重点的な取組事項－３ 健康な児童の育成					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身の健康指導の充実		児童意識調査及び保護者学校評価の 関連項目達成と 90 %以上	児童意識調査肯定的回答 87% 保護者肯定的回答 90%	児童の悩みや不安理解 についての割合が若干 低い。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
健康教育の充実	意識調査による「健康」 項目の満足度 92 %以上	保健授業、安全指導、食育指導 衛生チェック、残滓チェック	児童意識調査肯定的回答 87% 保護者肯定的回答 90%	昨年度に比較して衛生 意識が希薄化している 点は否めない。	○
体力の向上	体力テストの全種目で都 の平均を上回る	体育集会 投力向上授業（5、6年） なわとび週間 持久走週間	全般的に都平均を若干下回る結果 であった。	体力テスト結果は学年 により異なるが、全体 的に持久力、走力、投 力に課題がある	●
安心できる環境	意識調査による「安心」 項目の満足度 92 %以上	Q U 調査 いじめ調査 体罰調査 情報モラル指導 人権教育 道徳教育	児童意識調査肯定的回答 94%	今後も日常の見守りを しっかり行い安心安全 な環境づくりに努め る。	◎

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・児童の学力向上につなげるための、国語算数を中心とした朝学習や放課後学習、また、教員の校内研究や教科担任制導入などが成果として学力調査等にも表れている。こうした取り組みを継続させながら今後、AI ドリル等の ICT 利用にも積極的に取り組み、さらなる学力の向上を図る。
- ・中、低学年に対し高学年が模範を示すことで、3 名人指導を充実させることができた。落ち着いた学習環境をつくるため今後も継続していく
- ・今年度の縄跳びや持久走、投げ方教室などを今後も継続し体力向上を図る。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・今年度も各行事への協力のほか、交通安全の見守りや読書の読み聞かせ活動などご支援とご理解をいただき、ありがとうございました。また、コロナ後は、教育の ICT 化をはじめとし、前例踏襲をよしとせず、時代に合った教育活動を意識して進めております。今後も皆様のご意見を伺いながら適切な教育環境づくりに努めてまいります。ご理解ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。